日本体育・スポーツ・健康学会
若手の会

vol.109
2026.09.01

若手研究者コラムリレー

裵 芝允（ベ じゆん）

プロフィール

上智大学基盤教育センター身体知領域　准教授
日本体育・スポーツ・健康学会の専門領域：体育哲学

韓国・大邱生まれ、釜山育ち。韓国では大邱教育大学校を卒業後、小学校教師として勤務。2013年より日本に留学。2019年広島大学大学院にて樋口聡先生に師事し、博士号(教育学)を取得。広島大学附属福山高等学校、広島大学を経て、現職。

広島大学附属福山高等学校、広島大学を経て、現職に至る

E-mail: jiyunbae@sophia.ac.jp

ヨガ指導者養成コース@Chiangmai, Thai

わたしの研究

あなたの「身体感性論」は何ですか？

私の研究のキーワードは、「身体」「生きる」「学ぶ」です。背景となる学問は「哲学」「教育学」です。身体を手がかりに、人はいかに生き、学ぶのかを問い、よりよく生き、学び続けるための教育を考えています。

この問いの原点には、小学校教師として子どもたちと過ごした経験があります。教師が付き添える時間には限りがあります。その後の長い人生を支え、自ら学び続ける力を、教育はいかに育むことができるのか。この問いを、哲学者リチャード・シュスターマンの「身体感性論（somaesthetics）」を手がかりに考えてきました。

身体感性論は、身体を単なる客体ではなく、感じ、行為し、世界を経験する主体として捉え、身体的経験そのものを哲学的探究の対象とします。博士論文では、この視点から教育を理論的に検討するとともに、韓国古代の教育の一つ、花郎を考察しました。修了後は、自らのヨガ実践を「一人称視点」から分析し、身体実践における「上達」や身体知の成立を研究しています。

現在は、ヨガ指導者養成カリキュラムにおける、身体感性を促す「わざ言語」の生成と変容を研究しています。また、ヨガに限らず、ダンスやアートなど、身体を通して学ぶ実践へと研究対象を広げ、「学ぶこと」「教えること」を身体の側から捉え直すことを試みています。こうした理論と実践の往還を、上智大学の全学共通科目「身体のリベラルアーツ」にも展開しています。

私たちにとって、身体とは何でしょうか。どう感じ、どう動き、どう学ぶのでしょうか。「身体感性論」とは、身体をめぐる一つの答えではなく、自らの身体から「どう生きるか、どう学ぶか」を問い直すための方法です。

わたしの渾身の論文・書籍・記事　必読

“Somaesthetics and Yoga.” *Journal of the Philosophy of Sport* 47(2), 217–231, 2020.
“John Dewey’s Art as Experience in Korea and Japan.” *Journal of Aesthetic Education* 58(4), 43–53, 2024.

なんでも帳

自分自身を「移住者」と定義して考えたことは、これまでほとんどありませんでした。私にとって日本での暮らしは、国境を越えて「移住」した結果というより、日々の生活そのものだからです。私は自分を「移住者」ではなく、「生活者」として認識しています。もちろん、韓国で生まれ育ち、今は日本で暮らしているという事実は知っています。でも、それを毎日の暮らしの中で、いちいち意識するわけではありません。

ただ、ときどき考えます。いつか、日本で暮らした時間が、母国で過ごした時間を追い越す。その「折り返し地点」を過ぎたとき、自分の中にある「韓国」と「日本」の濃度は変わるのだろうかと。まだ十数年先のことですが、少し気になっています。

これまで「移住者」というアイデンティティが目立たなかったのは、私が日本に来た頃が、グローバル化の空気が強かった時代だったからかもしれません。しかし、コロナ禍によって国境を超える移動の制限が突如として現れました。その後、世界の各地で移民を歓迎しない空気も強まっていると感じます。最近では、それが遠い世界の話ではなく、自分の暮らしに直接影響する政策の変化として現れるようになりました。そうなると、「移住者」という言葉が、これまでとは違う重みを持って、自分の中で浮上してきます。

日々の暮らしは、そう変わりません。それでも最近、自分の中で芽生えてきた「移住者」という意識と、どう付き合っていけばいいのか。それが最近の、静かな悩みです。

日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育・スポーツ・健康学会若手の会が発足しました！→ メーリングリスト登録フォーム:
https://goo.gl/forms/zGMPdPq5fY3kcB5q2
学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。
taiikugakkaiwakate@gmail.com